

# JICA研修員レポート

札幌に滞在中のJICA研修員に聞きました!  
(聞き手: JICA札幌 研修業務課/板垣賢樹)

研修コース名

## 都市生活型の環境問題



アハメド・モハメド・ワエル・オマール

AHMED MOHAMED Wael Omar(愛称:ウワエルさん)  
<エジプト> エジプト環境局環境部大気・騒音課環境技術者



### あなたの国ではどんなものが有名ですか?

ピラミッドやスフィンクスは日本でも良く知られていると思いますが、他にも有名な遺跡があり世界遺産にも認定されているルクソールや、アレクサンドロス大王が建設したギリシャ風のとても綺麗な都市、アレキサン드리アが有名です。

### あなたの国では、 日本はどのようなイメージですか?

時間の正確性など、何事にも正確なプロセスを大事にするイメージがあり、それが日本の長所だと思います。私も日本で滞在する中で、「Time is Money」を実感しました。

### 日本でお気に入りの場所は?

「札幌」は私のお気に入りの場所です。やはり、札幌に一番長く滞在していたので、人々の温かさにも触れて、快適に過ごせています。雪も大好きです。



▲生け花を体験しました

### 札幌でお気に入りの場所は?

繁華街で人々の行動を観察することが好きです。エジプトとの違い、日本人の特徴がよく見えてきます。

### 日本に来る前と来た後で、 イメージの変化はありましたか?

思っていたより、日本人の背が高いことに驚きました!



ボマレ・レヴェル・アシルヴィナ・エドナ

POMARE LEVER Asilvina Edna(愛称:アシルヴィナさん)  
<コロンビア> サン・アンドレス諸島・プロビデンシア島・サンカタリーナ島持続的開発公社  
環境管理局 環境品質調整員



### あなたの国ではどんなものが有名ですか?

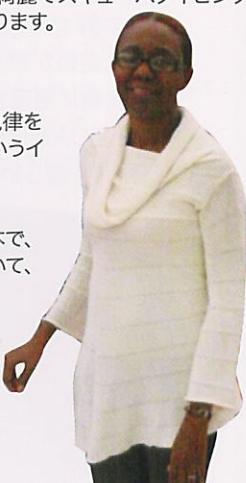
カルタヘナという世界遺産に認定されている都市が有名です。スペイン植民地時代の建造物や要塞や港などが現在も残っています。他にも、国立公園となっているシエラネバダ山脈や、私の地元である海が綺麗でスキューバダイビングで人気のサン・アンドレス諸島など、見所は沢山あります。

### あなたの国では、 日本はどのようなイメージですか?

高い技術力をもった国であること、そして時間や規律を守ること、チームワークがしっかりしている国だというイメージがあります。

### 日本でお気に入りの場所は?

「京都」はまさに私がイメージしていたとおりの日本で、とても愛すべき都市です。日本の伝統が守られていて、美しい街だと思いました。



▲日本の生活を楽しむ  
アシルヴィナさん

### 札幌でお気に入りの場所は?

サッポロビール工場は私のお気に入りの場所です。ビールが美味しいことは勿論ですが、建物もとても魅力的です。

### 日本に来る前と来た後で、 イメージの変化はありましたか?

人々がとても親切で温かいことに驚きました。また、日本食も想像以上に美味しく、大好きです。

## ワールドリポート

# 緊急援助の最前線で見た 被災地ハイチ

## ～国際緊急援助隊(医療チーム)の活動を通して～

現地時間1月12日午後4時53分、ハイチを襲ったM7.0の大地震。最新発表では犠牲者23万人ともいわれる未曾有の大災害に対し、JICAの国際緊急援助隊(医療チーム)が1月16日から1月29日まで派遣され、JICA札幌所長:外川がチームの副団長として参団しました。

医師や看護師、業務調整員等から構成された総勢25名の医療チームが活動の拠点としたのは、ハイチの首都から40km離れたレオガン市。人口10万人に対し死者3千人、負傷者1万人という被災状況でした。倒壊を免れた現地の看護学校の敷地内にテントを張り、8日間で534人の患者を診療。現地語であるクレオール語しか話せない患者が多くなったため、看護学校の学生たちが通訳を兼ねたアシスタントとして大活躍してくれました。

帰国後、2月3日にJICA札幌で緊急開催した報告会には40名近い聴衆が集まり、ハイチ大震災に対する関心

ハイチでの緊急援助活動について語る

JICA札幌所長:外川、2月3日の報告会にて▶

の高さを物語っていました。新聞やテレビでは伝えきれない被災地の様子や、災害時の緊急援助もJICA事業の1つであることを広く伝える機会となりました。

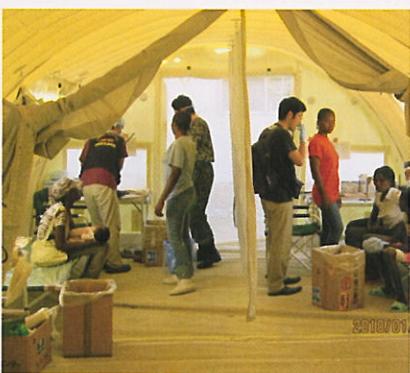
現地での医療活動はいったん自衛隊に引き継ぎましたが、JICAは今後も国際社会と連携してハイチの中長期的な復興に取り組みます。道内では北海道YMCAを始めとするさまざまな市民団体が義援金などを募っていますので、震災を風化させることなく、支援活動が継続されることを願っています。



▲自らも被災者でありながら、ボランティアで  
通訳をしてくれた現地の看護学生たち



▲被災地でカナダチームとの  
調整にあたる外川



▲診療テントの内部。  
日中の気温は48℃にまで達することも

